

1 大きな風車の物語

その1 風の王国プロジェクト——風車一〇〇〇本計画

離陸した夢プラン

秋田の強い風を生かして、県の海岸部と大潟村に合計一〇〇〇本の風車を建設、グリーンエネルギー基地を目指そう。風の王国を築こう——。そんな壮大な夢物語を提起した男がいる。当初は文字通り「夢物語」と受け止められた計画だったが、二〇一二年（平成二十四年）一月には「株式会社風の王国」も設立され、東北電力の系統枠への申し込みも行われた。夢プランが、まさに離陸しようとしている。

青年は荒野をめざす

「風車一〇〇〇本計画」を提唱し、牽引してきた男の名前を山本久博という。一九五一年

（昭和二六年）生まれで、秋田市内で美容室「モードスタジオQ」を経営。そのかたわら、ソーラーカー・チームを率いる。美容師を勢揃いさせた山本チームは「世界で最も華麗なチーム」といわれるが、一九九九年の豪州縦断三〇〇〇キロのソーラーカー・レースのプライベート・クラスで準優勝に輝いた実績も持つ。

山本の経歴をみよう。

地元の高校を卒業するころ、大学は紛争真つ盛りだった。

「もともとあまり勉強は好きではなかった。ひたすら海外に渡りたい、と思い続けていた。愛読書だった五木寛之の小説『青年は荒野をめざす』などの影響もあったかも知れない」と山本。

調べてみると、アメリカ・西海岸のロサンゼルスに姉妹校を持つ美容学校「山野高等美容専門学校」が東京・代々木にある。「ハサミ一本で海外に」の夢を胸に、愛車（バイク）とともに上京、同校に入学した。

入学後も車好きはますます加速、中古車店の若主人と仲良しになり、バイクを頭金としてホンダS600（S6）を手に入れる。この車で帰郷する途中、水戸街道の柏（千葉県）付近で大事故に遭う。意識不明となったが、幸い一命は取り留めた。山本には非はなく、補償金四五万円が山本の手に。それを元手に山本は、ロスへの留学を実現させる。一九七二年